

靴 箱

新しい学年が始まり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。新しい友だちや新しい先生との出会いに、期待と少しの緊張を感じながらも、元気に明るい表情で登校する姿がとても嬉しく思います。

そんな中、朝の昇降口で目を引いたのは、靴箱にまっすぐきれいにそろえられた子供たちの靴でした。一足一足が整然と並び、その丁寧さから、心の中にも一学年進級した落ち着きと意識の高さが育っていることを感じさせてくれます。

「靴をそろえる」というのは、実はとても奥深い行動です。履いた靴を脱いで、くるりと向きを変え、次に履きやすいように踵をそろえて置く。その一連の動作には、「自分を律する心」が自然と含まれていると考えます。登校して、校舎に入る際に子供たちが必ず行う動作です。その靴の状態は、その子の心の様子も映し出しているかもしれませんね。



明治維新の立役者、西郷隆盛はこんな言葉を残しています。

「まず自分の履物をそろえよ。そこから心が整う」

彼が主宰した私塾「南洲翁遺訓」では、掃除や整理整頓が何より重んじられていました。どれほど剣の腕が立っても、どれほど賢くても、日々の暮らしを丁寧にできなければ一人前ではない。西郷さんはそう考えていたのです。

現代でも、同じような考え方を大切にしている人がいます。

元メジャーリーガーのイチロー選手は、試合前に必ずスパイクを自分で磨き、靴をそろえてロッカーに置くことを習慣にしていました。道具や足元を整えることが、自分の心を整えることにつながると知っていたからです。

また、将棋の藤井聡太さんも、対局の前に靴を脱ぐ所作がとても美しいと話題になりました。きちんとそろえて置くその姿に、彼の集中力や礼儀正しさが表れていると、多くの人が感心しています。

小さなことを丁寧にできる人は、大きなことにも心を込めて取り組める人ではとったりもします。そして、それは大人も子供も変わりません。

靴をそろえる。

たったそれだけのこともかもしれませんが、その習慣がやがて、周りへの思いやりや、静かな自信につながっていくでしょう。

校長室の窓から遊ぶ子供たちを眺めながら、午後の くつろぎとともに、そんな未来を感じました。